

令和 7 年 9 月 11 日

第 86 回 法人企業景気予測調査結果（四国地方の概要） （令和 7 年 7～9 月期調査）

企業の景況判断は 3 期連続で「下降」超

【景況判断】

全産業の景況判断 B S I（7～9 月期）については、原材料価格の上昇による影響などがみられるものの、イベント効果により客数が増加したことなどから、▲4.0% ㊦（前回の▲11.2% ㊦から 7.2% ㊦上昇）となり、「下降」超幅が縮小。

先行き（翌期）については、人件費の増加の影響などが懸念されるものの、受注の増加や販路拡大の効果などから「下降」超幅が縮小する見通し。

製造業：前回▲5.3% ㊦ ⇒ 今回 ▲14.6% ㊦（9.3% ㊦下降、下降超幅が拡大）

「食料品」：原材料価格の上昇などにより下降超幅が拡大

「木材・木製品」：住宅向け商品の需要の減少などから下降超となる

「金属製品」：米国通商政策の不確実性が低下したことなどから下降超幅が縮小

非製造業：前回▲14.8% ㊦ ⇒ 今回 2.4% ㊦（17.2% ㊦上昇、上昇超に転じる）

「建設」：工事の受注増などから下降超幅が縮小

「宿泊・飲食サービス」：イベント効果による客数増などから上昇超に転じる

「情報通信」：人件費の増加や需要の減少などから下降超幅が拡大

【従業員数判断】

全産業の従業員数判断 B S I（7～9 月期）については、引き続き多くの業種で人手不足感があることから、29.9% ㊦（前回の 30.2% ㊦から 0.3% ㊦下降）となり、「不足気味」超となっている。

先行き（翌期）については、求人の強化や人員配置の見直しなどに取り組むという声もあり、「不足気味」超幅が縮小する見通し。